

せ

さいたまトリエンナーレ2016

さいたまスタディーズ
連続セミナー



SAITAMA
TRIENNALE
2016
さいたまトリエンナーレ

地形・地質・植生 スタディーズ

SAITAMA STUDIES

Saitama Triennale 2016

地形、地質、植生、気象、歴史、文化：
古代から現在まで、さいたまの姿を
横断的に見渡す連続セミナーです。



開催期間 2015年10月27日[火]～2016年3月19日[土](全6回)

参加無料/申込不要/直接会場へ

定員各回80名(当日先着順)

主催 さいたまトリエンナーレ実行委員会
助成 文化庁(平成27年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)

<http://saitamatriennale.jp/>



文化庁



▲提供:さいたま市立博物館

SEMINAR 01 10/27火 18:30-21:00 (開場18:10) 浦和コミュニティセンター 第13集会室

「地図とデータで見るさいたま」

さいたまは、ともすれば特徴や個性が希薄とらえられがちですが、本当にそうなのでしょうか？さいたまスタディーズの研究成果をお伝えする連続セミナーの初回は、地図やデータを用いてさまざまな角度・視点から現在のさいたまの姿を見ていきます。

【講師】後藤真太郎、安部邦昭 【進行】三浦匡史

SEMINAR 02 11/24火 18:30-21:00 (開場18:10) 市民会館おおみや 第3~5集会室

「いかにしてさいたまは、住宅都市、生活都市としてのアイデンティティを形成してきたか」

さいたまは、「生活都市、ベッドタウン」という性格を持っていることは誰もが認めるどころです。しかし、そのような都市の性格は、いつごろどのように備わってきたのでしょうか？江戸期から現在までいつも江戸・東京の後背地として機能しつつ、どこか「理想都市のイメージ」を備えてきたさいたまの実態や、高度経済成長期以降の変貌を見ていきます。

【講師】中津原努、深堀清隆 【進行】三浦匡史

SEMINAR 03 12/7月 18:30-21:00 (開場18:10) 岩槻駅東口コミュニティセンター ワツルームB

「広大な関東平野をめぐる水みちと人の営み、そして江戸とさいたまの関係を知る」

中世のさいたまは、東国においてどのような位置にあり、どのような暮らしの場だったのでしょか？また、江戸とさいたまはどのような関係にあったのでしょうか？広大な関東平野に繰り広げられた勢力争いや、中世から近世にかけて取り組まれた河川のつけ替えや低地・台地の開発の歴史を追い、近現代へと繋がるさいたまの姿を見ていきます。

【講師】藤原梯子、若林祥文、長谷川ます代 【進行】三浦匡史

SEMINAR 04 2/5金 18:30-21:00 (開場18:10) 武蔵浦和コミュニティセンター 第7~9集会室

「海岸線の移動と土地の隆起・沈降が生み出した土地に、人類が定住しクニ、ムラを形成していった」

さいたまは平坦で山も海もなく、地形的な特徴の乏しい内陸都市とみられがちです。しかし、長い時の流れを見ていくと、また違った姿が浮かび上がります。さいたまの地形をよく見ると、台地に谷が切れ込む複雑な微地形があり、神社や遺跡の位置にはその微地形に対応した何らかの規則性がありそうです。さいたまの地形に隠された意味を読み解き、さいたまに人が定住し暮らしの場をひらいた起源に遡ります。

【講師】鈴木正博、藤原梯子、松浦茂樹 【進行】三浦匡史

SEMINAR 05 2/20土 14:00-16:30 (開場13:40) 浦和コミュニティセンター 第13集会室

「地-質から見るさいたま」

連続セミナーの5回目は、さいたま市の外から気鋭の研究者をお招きして、新たな視点からさいたまを見ていきます。これまで「ベッドタウン」などの呼び名で一括りにされがちだった、居住機能を中心とする都市への視線変更や、一見希釈されているかに思われる土地のさまざまな場所性・古層の読み出しは、いかに可能なのか。集落史や土地利用史、微地形などを手掛かりに居住都市の形成過程を長期的視点で検証し、「さいたま」固有の土地の性格―“地-質”を探ります。

【講師】松田法子 【聞き手】芹沢高志 【進行】三浦匡史

SEMINAR 06 3/19土 14:00-16:30 (開場13:40) コクーンシティコクーン2(3F) コクーンホール

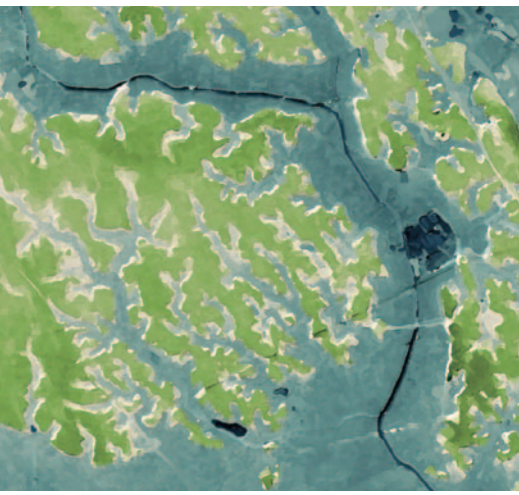
「さいたまスタディーズからさいたまトリエンナーレ2016に託すこと」

連続セミナーの最終回では、さいたまスタディーズのまとめとして研究会活動を振り返りつつ、半年後に開催が迫るさいたまトリエンナーレ2016への期待や見どころをお伝えします。スタディーズで得た視点をトリエンナーレにどのように繋げていくのか、未来への視点をもちながら、来場者のみなさんとともに語り合います。

【パネリスト】芹沢高志、深澤晃平 【進行】三浦匡史



▲提供:さいたま市立浦和博物館



PROFILE 登壇者プロフィール

後藤真太郎 | Shintaro GOTO 立正大学地球環境科学部教授、Code for SAITAMA代表、埼玉県GIS普及推進研究会会長。GISを活用した環境管理システムの構築などを専門とし、近年は市民活動やボランティア活動などへの適用を含む社会的活動にも積極的に取り組んでいる。

安部邦昭 | Kuniaki ABE 大宮経済新聞デスク、Code for SAITAMA副代表、NPO法人都市づくりNPOさいたま理事、さいたま百景選定市民委員会幹事、エバーグリーン・プランニング代表ほか。さいたま市を拠点に、まち・人・自然・情報を結ぶための仕掛けづくりや情報発信などを行っている。景観生態学が専門。

中津原努 | Tsutomu NAKATSUHARA さいたま百景選定市民委員会事務局局長、NPO法人都市づくりNPOさいたま副理事長。幼児期から旧浦和市および旧大宮市に居住し、終戦後、高度成長期から21世紀にわたるさいたま市地域を見てきた。都市計画コンサルタントとして埼玉県、さいたま市を中心に活動の後、近年はNPOをベースに市民まちづくりの支援、市民の立場からのまちづくりの提案等を行っている。

深堀清隆 | Kiyotaka FUKAHORI 埼玉大学理工学部准教授、さいたま百景選定市民委員会。土木景観から始まり、人間が環境を見ることに関わる幅広い研究テーマを扱う。街並み景観、歩行環境から森の景観、夜の光環境など。「さいたまスタディーズ」ではさいたま百景の活動で得たさまざまな風景の観点からさいたま市を考える。

藤原梯子 | Tomoko FUJIWARA NPO法人水のフォルム理事長。流域のさまざまな水を情報発信するとともに、さいたま市中央に位置する通称「見沼たんぼ」で市民たんぼを開発し、循環型伝統農法で里地里山の再生保全に取り組んでいる。

若林祥文 | Yoshifumi WAKABAYASHI NPO法人都市づくりNPOさいたま理事、NPO法人水のフォルム会員。埼玉各地を歩き、歴史的な建造物を見るのを楽しむ。岩槻では丹過・長谷川見世蔵の保全利活用プロジェクトに関わる。

長谷川ます代 | Masuyo HASEGAWA NPO法人岩槻まちづくり市民協議会の岩槻学部長。岩槻を学び・岩槻を楽しみ・岩槻を創る」をキャッチコピーとして平成20年度より「岩槻学講座」「岩槻学検定試験」「人形文化編」「夏休み自由研究お助け講座」などの企画運営をしている。

鈴木正博 | Masahiro SUZUKI 馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム事務局、NPO法人野外調査研究所理事。馬場小室山遺跡の保全・活用を通じたパブリック・アーケオロジーを基盤とし、「見沼文化」1万年の環境変動とそれに適応する人類活動を核とした「荒川学のフロンティア」事業を企画し、さいたま市の人類史として再構築している。

松浦茂樹 | Shigeki MATSUURA 武蔵文化研究会会長、NPO法人野外調査研究所理事。埼玉平野をフィールドに、河川・水との関わりを中心にして古代から今日までの開発・整備を研究している。主要著書『埼玉平野の成立ち・風土』『埼玉の津と埼玉古墳群』など。

松田法子 | Noriko MATSUDA 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科専任講師。専門は建築史・都市史。民家・町並みから大都市・集落まで、建築と集住体のフィールドワークを幅広く行う。近年は地形・地質・水系などと地域史を複合させた広域なエアスタディにも取り組んでいる。

深澤晃平 | Kohei HUKAZAWA 編集者、地図デザイナー。大学在学中より都市化された空間に地形や先史時代の遺跡・寺社仏閣などをレイヤー化して重ね合わせる地図を作成。その地図は中沢新一氏の著書『アースダイバー』に収録されているほか、自治体による観光ガイドマップや地域活性化webサイトの編集・制作などを手がける。

芹沢高志 | Takashi SERIZAWA [さいたまトリエンナーレ2016 ディレクター] 1989年にP3 art and environmentを開発。1999年までは東長寺境内地下の講堂をベースに、その後は場所を特定せずに、さまざまなアート、環境関係のプロジェクトを展開している。

三浦匡史 | Tadashi MIURA [さいたまトリエンナーレ2016 プロジェクトディレクター] NPO法人都市づくりNPOさいたま理事・事務局長、地域生活デザイン代表。地域生活を豊かにするための環境整備プランニングや、都市計画、まちづくりに係わる調査を実施する。「さいたまスタディーズ」ではまとめ役を務めている。

開催期間 2015年10月27日[火]~2016年3月19日[土](全6回) 参加無料 / 申込不要 / 直接会場へ 定員各回80名(当日先着順)

▲本展示および関連イベントにおける記録写真・映像は、さいたまトリエンナーレ2016、およびさいたま市の活動として、ウェブサイトやチラシなどの広報媒体や、報告書などに使用することがあります。ご了承のうえご参加ください。

ABOUT "SAITAMA STUDIES"

さいたまスタディーズとは



「さいたま」について、みなさんはどんなイメージをもっていますか。

その姿や成り立ちについて、意外と知らないこと、気づいていないことも多くあるのではないのでしょうか。

◆さいたまトリエンナーレ2016の開催テーマ『未来の発見!』とは、実は自分たちが住む場所「さいたま」の発見でもあります。トリエンナーレを開催するにあたり、「土地の理解」を重要な出発点と考え、地形、地質、植生、気象、歴史、文化など多方面から、さいたま市を横断的、即地的に見渡す調査研究「さいたまスタディーズ」に取り組んでいます。

◆2015年の春より研究者や実務家が集い、多方面からさいたまの姿を見直してきました。その成果を、全6回にわたる「連続セミナー」の形で発表します。

◆今現在、間近に見ることのできるさいたまのルーツを求めて時代を遡り、時代ごとの特徴をとらえながら、「さいたまとはどんな場所なのか」を紐解き、みなさんに分かりやすく楽しくお伝えしていきます。

◆連続セミナーは各回ごとの参加も可能ですが、全6回を通じて参加いただければ、きっと新たな「さいたま」の発見に繋がります。さまざまな「さいたま」の姿を知れば、この地で開催されるトリエンナーレをより一層お楽しみいただけることでしょう！ぜひご参加ください！

ACCESS

会場アクセス

10/27, 2/20

浦和コミュニティセンター

〒330-0055

さいたま市浦和区東高砂町11-1 10F

アクセス: JR線「浦和駅東口」より徒歩1分
 駐車場: 地下市営駐車場(30分毎に200円)等、近隣の駐車場をご利用ください。



11/24

市民会館おおみや

〒330-0844

さいたま市大宮区下町3-47-8

アクセス: [大宮駅をご利用の場合]
 JR線・ニューシャトルほか「大宮駅東口」より徒歩15分
 [大宮駅東口からバスをご利用の場合]
 東武バス 3番乗場 天沼循環「吉敷一丁目」下車 徒歩5分
 駐車場: 50台
 ※駐車場に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。



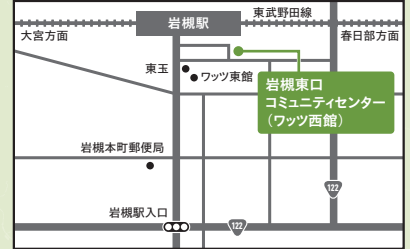
12/7

岩槻駅東口コミュニティセンター

〒339-0057

さいたま市岩槻区本町3-1-1

アクセス: 東武アーバンパークライン(野田線)「岩槻駅」より徒歩1分
 駐車場: ワッツ東館5・6階市営駐車場(30分毎に100円)等、近隣の駐車場をご利用ください。



2/5

武蔵浦和コミュニティセンター

〒336-0021

さいたま市南区別所 7-20-1(サウスピア 8F)

アクセス: JR線「武蔵浦和駅西口」より徒歩2分(デッキ直結)
 駐車場: 30分毎に100円(サウスピア専用駐車場59台)



3/19

コクーンシティ コクーン2

〒330-0843

さいたま市大宮区吉敷町4-263-1

アクセス: JR線「さいたま新都心駅東口」よりすぐ
 駐車場: 30分毎に200円



表面ビジュアル: 『地形ケーキ』 杉浦 貴美子

さいたまトリエンナーレ2016とは



**SAITAMA
 TRIENNALE
 2016**
 さいたま トリエンナーレ 2016

126万人が生活するさいたま市に、世界に開かれた創造と交流の現場をつくりだすことを目指す国際芸術祭。テーマは「未来の発見!」。アートを鑑賞するだけでなく、共につくる、参加する芸術祭です。まちの成り立ちや知られざる自然、土地の歴史など、生活都市ならではの魅力が見える、市内のさまざまな場所が会場となります。国内外のアーティストたちが発見する、多様で多彩なさいたま。市民の皆さん、観客の皆さんとともに、自分たちのこれからの未来を発見していきます。2015年度は、本番となる2016年に繋がるプロジェクトを市内各所で展開します。

主催:さいたまトリエンナーレ実行委員会
 問い合わせ先(受付時間 平日8:30~17:15)
 さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局
 (さいたま市 スポーツ文化局 文化部 文化振興課 トリエンナーレ係)
 〒330-9588 埼玉県さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
 Tel: 048-829-1225 Fax: 048-829-1996 Mail: bunka-shinko@city.saitama.lg.jp

詳しくはウェブサイトへアクセス!

<http://saitamatriennale.jp/>

このイベントの開催に要する経費は128万円です。(国庫補助金を差し引いたさいたま市の負担額は、87万円です。)

2016年9月24日[土]-12月11日[日]